

球春到来！ GM 杯開幕

札幌にも少し遅い球春がやってきた……
札幌 Golden Mead Cup コミッション・ゲーム

パーソングループ・札幌逍遥庵共同開催のプロスポーツシミュレーションリーグ・Golden Mead Cup の第5シーズン[以後 GM 杯 Season5 と表記]の開催が決定した。4月28日の開幕戦から約1年間の長期リーグ戦で、主に Cool&Heat の開催前、および札幌逍遥庵の開催中に試合を行う。

Season4 でコミッション専任だった farlanx がチームオーナー/監督に復帰し、過去2回チームを優勝に導いた佐野まさみがコミッション専任となってリーグを運営することで、6チームによる戦いとなる。

(参加チーム→2面・3面)

セラスポ
CELAENO SPORTS

第1号(2013年4月)

2月に行われたオーナー/監督会議で、Season5 は Season4 で採用した「TheBig 野球」を継続使用することを決定。コミッションの企画によって、レギュラーシーズン30試合の上位者によるポストシーズンの実施も発表されており、さらにデータ化された選手数の多さなどから、初めて1・2軍制を取ることにもなって、過去のプロ野球シミュレーションシーズンとはまた違った戦略・戦術が繰り広げられることが期待される。

早くしないといい内野が採れないや??

野球はどんなシステムでも打を中心としてチームを編成するものだろうか……

3月24日の Cool&Heat 開催前枠で行われたドラフト会議では、ドラフト1順目で6チーム中4チームが内野手クラスタを指名した。(編成結果→2面・3面、ドラフトルール→3面)

1巡目、ドラフトトップ指名権を持つドラゴノーズがソフトバンク先発をピック後、2番指名のソーサリアンズから4番指名のディープワンズまでが内野手を指名。さらに6番氏名のプリムストーンズと2巡目のドラゴノーズ(総合12番目)も指名して、6チーム中5チームが2順目までに内野手を固めた。このドラフトの注目点として、初めて採用さ

れる「同一チームから複数のクラスタを指名できない」ルールのなかで、投手・野手どちらを優先してチームを構成するかがあったが、先発投手を5順目(最終指名)に使って、狙った投手陣の一本釣りを狙うなどの工夫を凝らして、条件をクリアした。

全NPB12球団で、すべてのクラスタがピックされた球団はなく(最多指名[4クラスタ]のソフトバンクは捕手、日本ハムは先発投手が指名漏れ)、また、指名0の球団もなかった。なお、指名されなかったクラスタの選手を対象に、コミッション事務局がトライアウトを実施し、特別チームの編成を行うことが判明している。この特別チームは強化試合とポストシーズンの前座試合で登場する予定だ。

GM 杯 Season5 参加チーム紹介

東京ブルムストーンズ

BS

本拠地：明治神宮球場

オーナー / 監督：ずんだもち
(総合ランキング2位)

ドラフト指名

先発投手	オリックス⑤
リリーフ投手	ソフトバンク②
捕手	ロッテ③
内野手	日本ハム①
外野手	ヤクルト④

GM 杯 Season5 は以下の 6 チームによって開催されることとなった。コミSSIONナの短評 [主観] と共に紹介する。

(指名クラスタの後ろの丸付き数字は、ドラフト指名巡)

TBS の栄冠をもう一度……テレビ局ではなく野球チームのお話。Season2 に同じフル略号のチーム (東北ブロードショッピング) で優勝したずんだもちオーナー / 監督は着実な出塁・進塁から大砲に繋ぎ、相手守備を無視して点を取る野球を選択。2 大大砲と投手陣、特に史実でも大活躍したソフトバンク中抑えユニットが、重戦車と化した相手チームを潰す武器 (それぞれ、ブルムストーンミサイル級) となりうるはず。

伊予ローテンヘムデン

RH

本拠地：松山坊ちゃんスタジアム

オーナー / 監督：Yan
(総合ランキング3位)

ドラフト指名

先発投手	中日①
リリーフ投手	阪神②
捕手	巨人③
内野手	横浜⑤
外野手	ソフトバンク④

過去 3 シーズン、負け越し経験がないことでランキングが上がっている Yan オーナー / 監督 (本人曰く「納得いかん」) は、ドラフトで指名順が遅くなった状態に加えて、ディープワンズにドラフトで先手を取られて苦しみながらも、対策しにくい 1・2 軍ローテの組める投手陣と、長打力での一撃必殺を狙ったチームを編成。坊ちゃんの赤シャツ (Rothenhemden [独]) 教頭張りのイヤな (失礼) 采配で、5 割ジinxスの返上なるか?

千葉ディープワンズ

CD

本拠地：QVC マリンフィールド

オーナー / 監督：Stawka
(総合ランキング4位)

ドラフト指名

先発投手	楽天②
リリーフ投手	日本ハム④
捕手	広島⑤
内野手	阪神①
外野手	オリックス③

珍プレイ誘発能力・通称「マヌケ時空」の使い手・Stawka オーナー / 監督が 3 シーズンぶりに千葉へ居を構えた。それも、Season3 に自身が獲得した F1 レースの総合優勝タイトルを引っさげて。この事実ひとつとっても台風の目になりそうなことに加え、ドラフトでは次指名順のチームの頭を抱えさせる先取りが炸裂。出来上がった投手王国チームが、相手に色々な意味でまともな野球をさせないことを予感させている。

球団編成ルール：GM 杯 Season5 では、The Big 野球 2011 年版選手データ（サークル発勝負様作成）を使用。NPB12 球団をそれぞれ「先発投手」「リリーフ投手」「捕手」「内野手」「外野手」の5 クラスタに分割し、各チー

ム1 クラスタずつ指名し、チームを編成する。ただし一つの NPB 球団から指名できるクラスタは各チーム1 つのみと制限した。クラスタ指名は奇数巡は総合ランキング下位チームから、偶数巡は上位チームから行った。

PR はこだてパシフィックライジング

本拠地：函館千代台球場

オーナー / 監督：寿蘭々
(総合ランキング5位)

ドラフト指名

先発投手	広島⑤
リリーフ投手	ロッテ④
捕手	中日③
内野手	ヤクルト①
外野手	日本ハム②

リーグきってのチーム編成巧者・寿オーナー / 監督が Season5 で出した回答は、上位指名枠をすべて野手に使った「打撃と守備の野球」。特に谷繁+日本ハム外野レギュラー3名の「ライフルアームカルテット」が、出たランナーの盗塁・追加進塁を許さない。ピッチャーもドラフトをうまく捌いて並以上のユニットを作ったので、あとは対戦相手のダイス運（魔女の魔力やマヌケ時空やら……）に飲まれなければ夜明けは近い。

Ys 横浜ソーサリアンズ

本拠地：横浜スタジアム

オーナー / 監督：farlanx
(総合ランキング6位)

ドラフト指名

先発投手	阪神③
リリーフ投手	中日②
捕手	ヤクルト④
内野手	ソフトバンク①
外野手	巨人⑤

1 シーズンのコミッショナ専任を経て、オーナー / 監督に復帰した farlanx 監督が編成したのは、スピード&パワーの野球で奪ったリードを世界最強のリリーフ陣で守りきる、チーム名にも愛着を込めたソーサリアンズ。オーナー / 監督の悪名の一つとなっている、頻繁な代打・代走・守備交代による「毎試合総力戦野球」も、フルイニング出場者が3名いるソフトバンク内野陣を起用したことで緩和……されて欲しいなあ。

Dr 神戸ドラゴノーズ

本拠地：神戸ほっともっとフィールド

オーナー / 監督：ぐっち
(総合ランキング7位タイ)

ドラフト指名

先発投手	ソフトバンク①
リリーフ投手	オリックス⑤
捕手	日本ハム④
内野手	西武②
外野手	ロッテ③

—— 時封印まで検討されていたソフトバンク先発を、「統一球」にいち早く対応した打撃陣——特に中村剛の規格外級長打力で支える編成を選んだのが、昨年初参加で編成に苦勞したドラゴノーズ。チームを名古屋から神戸に移して捲土重来を図るが、前シーズン 30 試合中 2 試合の雨天中断を引き起こしたぐっちオーナー / 監督が自身の「雨男」体質を無視してオープンエアの球場を本拠に選んだことがどう影響するのか？

開幕節から好 (?) カード連発の日程発表

ドラフト終了後の日程抽選により、前半、第1節～第5節までの15戦の対戦順が決定した。第一節から共に内外野をヤクルト・日本ハムで編成した「擬兄弟」とも言えるパシフィックライジングとブルムストーンズが函館で激突。コミッショナ経験者がチームを率いる同士のローテンヘムデンとソーサリアンズが松山で戦い、千葉では「マヌケ時空使い」Stawkaのディープワンズが「雨男」ぐっちのドラゴノーズを迎え撃つと、ファン垂涎のカードが組まれた。

前半戦の対戦順						
	home	away	home	away	home	away
第1節	PR	BS	RH	Ys	CD	Dr
第2節	Dr	PR	BS	RH	Ys	CD
第3節	Ys	Dr	PR	RH	BS	CD
第4節	CD	RH	Ys	PR	Dr	BS
第5節	BS	Ys	RH	Dr	PR	CD

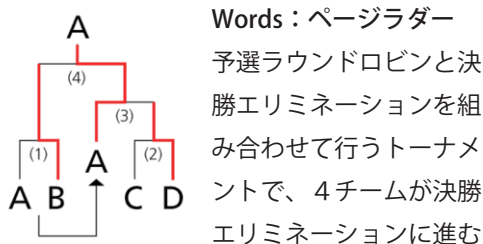
※各節3連戦。第2節・第4節の後に1日の移動・休養日がある。

なお、後半戦(第6節～第10節)15試合の対戦順は、第5節終了後の順位を元に变成することが発表されている。

最大5チーム進出?? 初のポストシーズン制

面にもあるとおり、GM杯 Season 5 はレギュラーシーズン 30 試合終了後に、エリミネーション式(日本で言うトーナメント式)のポストシーズンを行い、その優勝者がチャンピオンとなる。

ポストシーズンには、上位2チームは無条件で出場でき、3位以下でも勝率が5割以上であれば出場できる。このため、理論上は5チームがポストシーズンに進出可能だ。(万が一全チームが5割で終わった場合は、追加で各カード1試合の完全ラウンドロビンを行う)ポストシーズンは上位チームに常に1勝のアドバンテージが与えられ、3チーム以上の場合は上位チーム・ステージ勝者にバイが与えられるようなパラマスラダー、もしくはページラダー(Words参照)で1勝～3勝先取の戦いを行う。なお、ポストシーズンが天候の影響で順延がないように、全試合がドーム球場で行われることも発表済みだ。



予選ラウンドロビンと決勝エリミネーションを組み合わせて行うトーナメントで、4チームが決勝エリミネーションに進む場合の組み合わせ法のひとつ。予選1位 Vs 2位の上位グループ(1)、3位 Vs 4位の下位グループ(2)で第1Rを行い、上位グループの勝者は即決勝へ、上位グループの敗者は下位グループ勝者との準決勝(3)を行い、その勝者が決勝(4)に進出する。(図は Wikipedia より引用)

ソフトボールの国際トーナメントではよく採用されており、2008年までのオリンピックも予選ラウンドロビン→4チームによるページラダー決勝で行われた。